

子どもが好きになる高梁を

未来を担う子どもたちが高梁を好きになってくれるような環境づくりこそが必要だと考えています。私は農家として学校と連携し、牧場訪問の受け入れや特産品の紹介などを行っていますが、子どもたちからは「こんなものが高梁にあったんだ!」という声をもらい、地域の魅力を知ってもらえることに喜びを感じます。トマトやピオーネ、備中牛など高梁には誇れる特産品が多く、体験を通じて高梁の魅力を実感してもらえると考えています。

また、地元では秋祭りや盆踊りなど昔からの催しが続いている、子どもたちが、「布賀の祭りが好きだから大学生になっても帰ってくる」と言ってくれることもあります。人口減少に伴い工夫は必要ですが、地域の交流の場として今後も可能な限り続けたいと思います。

市には市民、特に子どもを巻き込んだ積極的な行政運営を期待しています。農業分野で言えば、移住希望者や市内の高校生と農業者が交流できる場を設けることで、移住促進や農業への関心につながると思います。大人だけでなく、子どもの声を聞けることは私たちにとっても貴重なことです。これからも地域活動や農業を通じて、子どもたちが高梁の誇りと魅力を感じてもらえるようにと考えています。



市民の幸福度を上げる取り組みを

生まれも育ちも高梁市で、私が小学生の頃は1学年に3クラスあり、各クラス35~40人程いました。息子が通う学校では1学年2クラス、各クラス20人前後となっており、人口減少を感じています。有識者会議に参加して実際の減少実態を知ったときは大きな驚きがありました。市民の皆さんにもぜひとも急激に進む人口減少について意識してほしいです。

策定中の後期基本計画からは、若年層、特に女性の増加を望むメッセージを受け取りました。人口増加には多様な方法を模索し、移住促進を図ることが重要と考えています。例えば、市外へ出た人が再び戻る「Uターン」や、お孫さんが祖父母を頼りに高梁へ戻ってくる「孫ターン」などもあります。核家族化が進む現代では、子育て支援を受けやすい環境が魅力となります。

市が整備した新しいこども園や子育て施策を積極的に発信することも有効だと思います。また、移住者を受け入れる側としても、人口減少の中で住む人の負担ができるだけ軽減できる取り組みが欠かせません。負担が大きい環境では定住という面で難しくなります。施設整備などハード面だけでなく、ソフト面でも考えていくことが重要になると思っています。

備北信用金庫
戸田 涼子さん (川端町)



“取捨選択”でまちづくりを進める

45年前に高梁市へ戻った当時、私の住む中井町には約2,000人が暮らしており、各地域でまちづくりが盛んに行われ、催しも多く開催されていました。しかし人口減少とともに、運営する人も減り、行事を開けば参加者や来訪者には喜ばれる一方で、町民の負担が増え、疲弊する場面も見られました。これは町内会活動全般にも共通する課題です。限られた予算の中で、最近では行事の数や内容を精査し、町民の暮らしを考えながらまちづくりを進めています。市が総合計画や、行財政改革を策定している今こそ、真剣に考える時期だと実感しています。

総合計画や行財政改革の推進は重要ですが、過度な改革は市民サービスの低下や、意欲低下につながる恐れがあります。例えば子育て施策に重点を置き、他の施策は廃止や縮小を検討するなど「取捨選択」が非常に重要になるとされています。

数年前の立地適正化計画で示されたコンパクトシティの考え方も大切ですが、過疎地域に住んでいる人は「仕方がなく住んでいる」のではなく、そこで暮らしに価値を見出しています。だからこそ、高梁に住む人が夢を持ち、自分のまちに关心を寄せられるような施策を進めてほしいです。市民の皆さんも自分のまちのあるべき形について少しでも興味を持ってもらえると嬉しい限りです。

Interview



株式会社三宅ファーム 専務取締役
三宅 勇輝さん (備中町布賀)

住む人が魅力を感じられるまちを

人口減少と厳しい財政状況にある本市において、後のまちづくりに向けて必要なことは何か。市の現状と課題、今後の展望などについて有識者会議に参加した人の中からお話をうかがいました。

寄せられた今後の課題

分野	主な意見
結婚・子育て	<ul style="list-style-type: none">出産よりも「出産後の子育て期」に不安を感じる声が多い。小児科・リハビリ科など専門医の不足、待機や通院負担が大きい。誰もが住みやすい=障害があっても子育てしやすいまちづくりが必要。
健 康	<ul style="list-style-type: none">市民の特定健診受診率が低い(特に40~50代)。医師会と協力し、地域診療所の存続・連携強化を図るべき。市内での産科開設は極めて困難(産科医3名体制+高コストが必要)。
福祉	<ul style="list-style-type: none">福祉サービス利用に至るまでの「つなぎ支援」や「伴走支援」が不足。介護・福祉施設で人材確保が極めて難しい。障害の特性に応じたきめ細かい施策対応を求める声。
教 育	<ul style="list-style-type: none">PTA活動が減少しており、地域と学校の関係が希薄化している。高齢者や農業従事者など、地域の多様な人材との関わりを教育に生かすべき。ICT支援員は県内でも長けている。端末もよく活用されている。
文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none">文化協会などの団体では高齢化による会員数の減が課題。若年層のスポーツ離れや、30~40代の運動不足が顕著。
防 災	<ul style="list-style-type: none">高齢化により、町内会や自主防災組織の活動が維持困難になっている。防災意識の高い人が限られ、災害時に実際に動ける体制が不十分。倒木や危険樹木など、日常的な危険除去の仕組みが整っていない。
産業振興	<ul style="list-style-type: none">農地集積が進まず、中間層の担い手不足が顕著。「薄く広く」よりも「集中支援」で本気の担い手を後押しすべき。お土産の商品化。作ればまだまだ売れる。高梁には食が足りない。
移住・定住	<ul style="list-style-type: none">空き家の増加が著しく、特に高齢者の施設入所後に放置されるケースが多い。移住希望者がいても、土地整備や道路インフラが整っておらず受け入れにくい。若年層や子育て世代が定住しにくく、人口減少に歯止めがかかる。
情報共有	<ul style="list-style-type: none">若年層、特に転出者層へのアプローチが不足している。将来人口や減少後の生活像を市民と共有し、「自分ごと化」を促す必要がある。
働く環境・女性の活躍	<ul style="list-style-type: none">女性が「残りたい」と思えるためには、職場環境とやりがいの両立が重要。高校卒業後の進路希望や転出者の実態把握を通じ、対策を検討すべき。仕事と生活の両立を支える環境整備が求められる。

意見聴取で得られたご意見や、若い世代の流出、出生数の減少等による人口減少の現状・課題などを踏まえ、後期基本計画では2つの重点目標を立て、各種施策に取り組んでいくこととしています。

だれもがしあわせを感じられる暮らしをつくる【幸福度の向上】

重点施策（案）

- 若者が挑戦・学び続けられる環境づくり
- 質の高い都市環境・住環境の整備
- 心も体も健やかに過ごせる環境づくり
- 世代を超えた地域交流・支え合いの促進
- 自然、歴史資産の保全・文化の継承
- 多様性を認め、互いに尊重できる社会の実現

人が集まり魅力あふれるまちをつくる【人口減少の克服】

重点施策（案）

- 安心して子育てできる環境づくり
- 出会い・結婚の希望をかなえる
- シティプロモーションの強化
- 移住・関係人口の促進
- 女性・若年世代を中心とした多様な働き方の実現
- 若年層の郷土愛醸成、地域内就職の促進

令和8年2月にはパブリックコメントを実施することとしており、年度末の策定に向けて作業を進めています。